

## 目 次

- . 皮膚の生酔用
- . 毛髪解剖と期
- . 異常脱毛の原因と対策
- . 脱毛症の別対策
- . 脱毛剤の知識
- . 電鵬の脱毛効果
- . フットバスの脱毛効果
- . ウィッグ装着の外、精柳効果
- . カウンセリングの大切さとインホームドコンセント
- . サロンケアとホームケア
  - . Dr. 浅井の脱毛促進システム

## ・皮膚の生理作用

### 1. 皮膚の生理作用

#### 保護作用

体温調節作用

吸収作用

分泌作用

感覚作用

抗原抗体反応作用

ビタミンD形成作用

### 2. 皮膚の構造

角質層          表皮

透明層

顆粒層

有棘層

基底層

真皮乳頭層      真皮

網状層

脂肪細胞の層   皮下組織

### 3. 皮膚の付属器官

汗腺

皮脂腺

立毛筋

毛

爪

## ・毛髪の解剖と毛周期

### 1. 毛の構造

- 1) 皮質 多くのメラニン色素を含む。ケラチン蛋白質繊維の束（角化したケラチノサイト）
- (2) 髄質 中心部。空気の含有量が多い。
- (3) 毛小皮 細長いうろこ状の単層、色素は持っていない。

### 2. 毛のうの構造

#### (1) 内毛根鞘（インナールートシース）

毛の鞘小皮とハックスレイ層、ヘンレイ層の3層の細胞層で包む。

毛と同じように、毛のうの底から生じていて毛と同じ率で成長し、毛球部を包みこんでおり、毛球部をすぎると角化し、毛と共に伸び皮脂腺に達すると落屑する。

#### 2 外毛根鞘（アウトルートシース）

内毛根鞘の外側に位置し、毛のう壁を構成している。皮脂腺から上は角化し皮膚の角質層につながり、毛穴を形成している。

### 3. 毛の成分

毛は化学的にはイオウを多量に含む、極めて安定した蛋白質であるケラチンから構成されている。

### 4. 毛の分類

長さ 長毛、短毛、産毛

硬さ 硬い毛、軟毛

形状 直毛、波状毛、縮毛

構成 産毛 皮脂腺から発生しており、毛乳頭、色素を持たない。

成長毛 頭髪や腋の下の毛で毛球を持ち、皮下組織に達する毛のうから生えている。

## 5. 毛周期（ヘアサイクル）

毛は1本1本それぞれの周期を持ち、それぞれにその周期を繰り返している。一定期を過ぎると自然に抜け落ち、しばらくすると又新しい毛が生えてくる。

### ・成長期（Anagen）

従来の毛のうの半分の深さまで縮んでいた毛のうが、毛乳頭に向かって下降を始めると成長期に入る。毛のうが下方へ伸び出すと、毛のうと逆方向に毛母細胞が活性化し、毛と内毛根鞘とに分かれ、ケラチン化が毛球上部まで進む。やがて、一定期間を過ぎると毛乳頭は毛への栄養供給を止めてしまう。それまでが、成長期で3カ月～5ケ年といわれている。頭髪は、5～6年間成長期が続く。

### ・退行期（Catagen）

毛は毛乳頭から栄養供給がストップされ、毛根と毛乳頭は離れてしまい、毛のうは縮んでいき、毛は上へと押し上げられていく。この期間の毛をクラブヘアと言う。この期間は、2～3週間で内毛根鞘も毛のうと同様に縮んでいく。

### ・休止期（Telogen）

毛のう活動が完全に停止し、毛が抜け落ちていく。毛乳頭は成長期の一番深い時の半分の所まで上がって来てしまい、次の成長期が始まるまで待機している。この期間は、3ケ月～4ケ月と言われている。

## ・異常脱毛の原因と対策

### 原因

#### 男性ホルモン作用

- ・5 $\alpha$  リラクターゼにより、5 $\alpha$  ダイヒドロテストステロン化
- ・角質層の肥厚
- ・皮脂分泌の促進

男性ホルモンは、皮膚の角質層、皮脂腺、毛球部にあるレセプターに刺激を与えて、角質層を肥厚させたり、皮脂分泌を促進させたり、毛母細胞の分裂を促進させる作用がある。その男性ホルモンの中でも、男性が分泌するホルモンはテストステロンと言い、上記の作用が強いので、男性の頭皮は、脂ぎって角質層のはがれた垢であるフケが多い。顔面では、ニキビが出来やすい。異常脱毛症が男性に多いのは、男性ホルモンのテストステロン（女性にはない）が、5 $\alpha$  リラクターゼにより、還元作用を受け、5 $\alpha$  ダイヒドロテストステロンとなる。この5 $\alpha$  ダイヒドロテストステロンは、作用が強力すぎて毛の製造工場である毛球部を破壊してしまう。その上、角質層の肥厚がより強力となり、フケの量が異常に多くなり毛穴を詰まらせてしまう。尚、皮脂の分泌が過剰となり、毛穴での毛の固着力をゆるめてしまう。これらが男性ホルモンによる脱毛症のメカニズムである。

頭蓋骨の発育（40 オピーク）

頭皮の発育（23 オピーク）

頭皮の突っ張りによる血行障害

#### ストレス

ストレスは、精神的、物理的共に、交感神経を緊張させる。交感神経は、体表面の末梢の毛細血管を収縮させる作用を持っているので、皮膚及び毛球部への血流が減少する。毛球部では、毛乳頭の血流が少なくなるので毛母細胞の分裂が出来なくなり、毛の製造が抑制を受ける。毛を製造するには、血液が不可欠なのである。

#### タバコ

タバコを1本吸うと、体温が1度下がると言われている。タバコにより末梢の血管が収縮してしまうためである。もちろん毛は製造されにくくなる。

## 生活習慣

皮膚と毛は夜作られる。夜はストレスや緊張から解放されて、副交感神経が強くなる。すると、末梢の血管が拡張し、充分血液が流れて来る。皮膚や毛球部へも血液の供給が多くなり細胞分泌が盛んとなり、毛も作られていく。夜は、充分睡眠をとることが大切である。

毛母細胞分裂 PM 9:00 ごろから始まる。

## 栄養のバランス

毛は、ケラチンと言う蛋白質から出来ている。食生活の中で充分蛋白源を摂取することが大切である。但し、その他の栄養素もバランスよくとらなければならない。

## 頭皮の不潔

男性ホルモンにより、フケ、脂が過剰に排出されるので、頭皮は不潔になりやすい。その上、細菌が繁殖しやすい状態であるので、頭皮に炎症がおこってしまう。充分、シャンプーをして清潔にすることが大切である。

## 対策

### 毛細血管拡張による血行障害改善

- ・頭皮へ温熱を与える
- ・センブリ抽出エキス
- ・マッサージをする
- ・ニンニクエキス

### 男性ホルモン過剰分泌抑制及び、5- $\alpha$ -ダイヒドロテストステロン合成の抑制

- ・女性ホルモン製剤
- ・オゾン
- ・酸化剤含有製剤

### 毛球部のエネルギー代謝促進剤

- ・塩化カルプロニウム
- ・フロジン液

### 休止期の毛乳頭を活動させる

- ・ATP (アデノシン 3 磷酸) 細胞が利用するエネルギーのこと

・ペンタデカン酸グリセリド

老廃物や脂肪分の除去

- ・殺菌、保湿、髪に栄養

シャンプー、マッサージ、ブラッシング

ストレスへの対応

- ・気分転換によるストレスの発散
- ・皮膚を温める施術
- ・スキントッチによるマッサージ
- ・カウンセリングをうける

発毛サロンを活用する

- ・適切なヘアケアアドバイスとカウンセリングをうける
- 適切なサロンケア施術をうける。

・脱毛症の分類別対策

## 1. 秕糖性脱毛（フケハゲ）

髪の毛に限らず体内に生えている毛は、しっかりと皮膚内の毛のうに固着していて、ちょっと引っ張ったくらいでは抜けない仕組みになっているものである。自然脱毛の場合は、休止期に達した毛乳頭が、活動を中止し、毛のう毛球部が角化して固着力が無くなるので抜けていくのであるが、休止期に達する前に毛が抜けていく場合は、異常脱毛ということになる。その一つの原因にフケがある。

フケとは、皮膚の角質層が剥がれることでいわゆる垢であるが、頭皮部は一般的にフケと呼ばれる。生理的に皮膚は、28日前後の周期で角化していくので、当然フケは常に出ているのであるが、身体的異常が発生した場合や男性ホルモン分泌が過剰なときは、皮膚の角化が促進されたり、異常となったりして、角質層が厚くなり、剥がれる角片即ち、頭皮のフケの量も多くなる。そのフケが毛穴の中に入り込むため、毛根と内毛根鞘の密着がゆるみだす。そうになると、毛はシャンプーやブラッシングで簡単に脱落する。即ち「毛が若死にしてい」ということになる。

この様にして脱落した毛の毛根部は、毛根下端に「オタマジャクシ」の尻尾のような未角化の根鞘が付着しているのが特徴である。毛の抜け落ちたこの毛のうからは、また毛が生えてくるのであるが、後に生えた毛は、脱落した毛よりも一段と痩せ細った毛に変わってくるので、こうした脱毛が半年～1年と長く続くと毛は痩せ細り、頭髪

は薄くなっていく。乾いたフケが、毎日シャンプーしてもどんどん出てくるときは、フケハゲの前兆として早めに対策をとることである。

## 2. 脂漏性脱毛症（若ハゲ）

この脱毛も、フケハゲと密接な関係があり、やはり男性ホルモン過剰分泌により角質層の肥厚でフケの産生過多となり、その上男性ホルモンは、毛のうの裏側に開口している皮脂腺をも刺激して皮脂の生産分泌を促進するので、この場合のフケは脂性のフケが多く出る。過剰に分泌された皮脂が、頭皮表面に順調に排泄されているうちは良いのであるが、異常に多く分泌し過ぎると、その皮脂が毛根鞘内に充満してくる。そうすると、毛根は内毛根鞘との固着力を失い、ブラッシングやシャンプー時に簡単に抜け落ちるのである。脱毛直後の抜毛の毛根には、白い付着物即ち、皮脂の塊がついているのが判る。

“早期発見、早期対策をすれば、若ハゲは予防できる。”

### 早期発見

- ・身内に若ハゲの人がいるかどうかをしてみる。男性若ハゲは優性遺伝である。
- ・男性ホルモン分泌の旺盛な人、毛深く、顎ヒゲがこわい男性、その他男性の特徴の強い人。ある年代まで人一倍髪が濃く良い頭髪の持ち主が、急に脂っぽいフケが出始め、洗っても洗っても脂性のフケが出てきて、痒みが強くなってきたら要注意。
- ・頭の形が大きくて、左右や上に突き出ている形や、とんがっている形の頭の男性も要注意。
- ・抜毛の本数が多くなり、その中に細くて短い毛がたくさん混じり始めたら要注意。  
毛の細毛化（健康毛0.8mmが1/2~1/4と細くなる）毛の短命化

### 早期対策

- ・毎日のブラッシング、豚毛や猪の毛のブラシで50回~100回行う。
- ・毎日の正しいシャンプー  
2回洗いをして皮脂をしっかりと取り除く。十分にすすぐこと。  
水分を良く拭きとり、発毛剤をスリコム。頭皮のマッサージを十分に行う。  
毛髪にリンスをして、現在の毛を大切にす。
- ・痒いときはガリガリ爪を立てて搔いてはいけない。細胞感染を起こしてしまう。
- ・毛は、夜作られる。夜9時頃は、リラックスした生活をする習慣を作る。
- ・効果は、4~6カ月後にしか現れないことを充分認識して、途中でギブアップしないこと。又、ウィッグを装着するのも良い方法である。あせらずに、毎日のケアをしていれば、ウィッグの下で毛がすくすく伸びていく。ウィッグは夜は、外して寝

る。

- ・急激な脱毛が始まったときは、専門家に相談する。
- ・現代の男性は男性型脱毛症に加えて、ストレスによる脱毛症が混在している。ストレスを発散させる方法を見つけることも大切である。
- ・脱毛サロン等を活用するのもよい方法である。的確なアドバイスと施術を受けることが出来る。

### 3. 円形脱毛症

この脱毛は、丸くハゲルところから円形ハゲと呼ばれる。この脱毛は、ある日突然に発見される。直径1~2cmのものが、1個から数個のものから、全頭部に広がるものなどいろいろである。

軽症の小さなもの1~2ヶの場合は、自然に3~4カ月後に産毛が生えて自然に良くなるものが50%前後あるのであるが、悪性になると脱毛部位が頭髪の生え際に不規則な形で広がっていったり、マユ毛、マツ毛まで飛火したりするものまであり、脱毛のほかに身体的疾患や心因性のあるものまで様々である。

医師の診察を受けることが必要な場合が多い。局所的薬剤投与、全身的薬剤投与、心因性の脱毛の時は、心理的療法なども必要となるからである。

100倍率顕微鏡で抜けた毛を見てみると、毛根部が痩せ細っているのがよく判る。心因性ストレスなどにより、自律神経に失調をきたし、毛細血管の収縮が起こり、血行障害のため毛母細胞分裂が充分できなかったために、毛が痩せ細り、未成育のまま抜けていくからである。

#### 早期発見と対策

- ・散髪の時、発見されやすい。発見したなら医師の診断治療を受けること。
- ・ストレスの原因を除くか又は、発散の方法を見つける。
- ・ストレスによる交感神経緊張で、末梢血管が収縮することにより、毛乳頭への血流不全から毛母細胞分裂が抑制を受けている。血流を良くする為に、発毛、育毛剤を塗布、頭皮のマッサージ、頭皮を温める、等を行う。
- ・タバコは絶対止めるべきである。
- ・ウィッグ等を利用して外見を気にしないようにする。気持ちをゆったりもって、毛が再び生えてくるのを気長に待つ様にする。

## ・ 発毛剤の知識

### センブリエキス系

脱毛症の治療の一つは、毛乳頭への血行を促進し、毛母細胞の分裂が盛んに行われるようにすることである。センブリは、漢方薬の健胃剤として重宝がられてきた薬草（徳島大学皮膚科教室研究室）であるが、胃の血行が良くなれば、皮膚の血行も良くなるとの見解からウサギによる実験を行い、皮膚横能、皮膚温上昇、皮膚温復元能力、細胞分裂促進効果を確認したうえ、人間に投与し、臨床実験有効率 75%のデータを出したものである。

### ニンクエクス

センブリエキス同様、血行促進の効果があり、その結果、毛母細胞の分裂を盛んにすることにより、発毛効果が得られるものである。

### 塩化カルプロニウム、ミノキシジル（リアップ）（カロヤン）

毛細血管拡張作用があり、毛乳頭の血流量を増加させ、毛母細胞に充分酸素と栄養を供給することを目的としている。

### ペンタデカン酸グリセニド

毛母細胞が活発に細胞分裂するためには、充分な酸素によりブドウ糖が酸化されてエネルギーを産生しなければならない。発毛期の毛乳頭の周囲には、エネルギーを出す ATP（アデノシン三リン酸）が、増加していることに着目し、ペンタデカン酸グリセニドを塗布することにより ATP を増加させ、休止期の毛乳頭にも発毛を促そうとする発毛剤である。ウサギの背中を剃り、ペンタデカン酸グリセニドを塗布して、1 カ月経過後その部分のみ発毛を見た。臨床効果も 70% 以上の効果率であったとの研究（徳島大学研究）の結果が得られた。塗布部位には、ATP が 3.5 倍になっていた。

### 女性ホルモン系

脱毛の原因の一つに、男性ホルモン 5- $\alpha$ -ダイヒドロテストステロンの分泌過多によることが解明されたが、その男性ホルモンに拮抗作用のある女性ホルモンを塗布すれば良いのではないかという発想から副作用の少ない女性ホルモン（オキシンドロン）を使用して、発毛剤とした。

- ・ オキシンドロンは、テストステロンの細胞内への取り込みを阻害する。
- ・ 5- $\alpha$ -リダクターゼの活性を阻害する。
- ・ 5- $\alpha$ -ダイヒドロテストステロンと細胞のレセプターとの結合を阻害する。

### ヒノキチオール系

檜を伐採する樵には、ハゲがないことからヒントを得た発毛剤である。

檜には、殺菌作用、抗炎症作用、細胞活性作用などがある。

### パントテン酸系

毛髪の生成、発毛促進、カユミ防止、脱毛防止の効果がある。

### ビタミンE系

毛乳頭の毛細血管拡張、血行促進の効果がある。血管内壁の過酸化脂質除去作用による血流量の増加作用による効果もある。

### サルチル酸

角質化した皮膚を溶解する作用を持つため、フケの除去、カユミ止めに効果がある。

### エタノール

一般的発毛剤の基剤として使用される。

### オゾン（オキシスプレー）

男性型脱毛症の場合は、男性ホルモンのテストステロンが、5 $\alpha$ リダクターゼにより還元され5 $\alpha$ ダイヒドロテストステロンとなり、毛球部を破壊することにより、脱毛が促進する。オゾン（O<sub>3</sub>）は、非常に酸化力が強いので、テストステロンの還元作用を抑制する力がある。それによってテストステロンが、5 $\alpha$ ダイヒドロテストステロンになるのを防ぐことが出来る。尚、頭皮は男性ホルモン過剰分泌によって角質層が厚くなりフケが多くその上皮脂分泌が多くなっているため、フケと脂で細菌の増殖に最適な環境となっている。オゾンは酸化力によって、細菌を死滅させる強力な消毒作用を有しているため、頭皮の炎症を予防するのに大きな力を発揮することになる。

## ・電磁波の発毛効果

### 電磁波とは

電流には、直流と交流とがある。交流電気の出来方は、電場と磁場が表と裏の関係で発生して波を作る。その波が電波である。1秒間に1つの波が出来た時1周波1ヘルツと言う。この波を電磁波と言い、波の数を周波（ヘルツ）で表す。波の巾を波長と言う。周波数が多くなると波長は反比例して短くなっていく。電磁波には、周波数によってその性質が異なる。それぞれの性質を利用して、色々な医療機器、美容機器が作られている。

発毛促進に電磁波を利用する。

### 低周波機

#### 低周波による刺激作用

通常、低周波とは3万ヘルツ以下の交流電流のことを意味しているが、医療の世界では2000ヘルツ位までの交流を使っている。

低周波は生体にたいして刺激作用があるので、マッスルトレーニングや美顔用のマッサージ器等にも利用されている。低周波の刺激作用は、単に周波数だけではなく波形、電圧、通電部位、通電面積等に左右される。

低周波の波形には次のような波形がある。

### 波 形

低周波の波形には次のようにいろいろあります。

直角波	周波数によって刺激的、鎮静的に作用する。
台形波	刺激作用が柔らかいので鎮静療法に適している。
三角波	刺激作用が強いので摩擦療法に適している。
尖頭波	強い刺激作用があるが電流量がきわめて少ないので危険が少ない。
変調波	麻痺した筋肉を可動させるのに効果がある。

低周波の刺激作用には条件があり、生体に刺激を引き起こすための最小限の電流量を閾値と呼び、人によってこの閾値が異なる。閾値の高い人は電流にたいして鈍感であるということである。

閾値を超えて電流量が上がっていくと、次第に筋肉の攣縮が強くなっていくが、一定の強さからはどんなに電流を強くしても、それ以上の攣縮が起こらないという限界がある。即ち、最大刺激を得れば、それ以上電流を増やしても無駄であるということである。

周波数によっても刺激の仕方が異なる。1ヘルツから50ヘルツ位までは刺激作用が強くなっていくが、50ヘルツをピークに次第に刺激は弱くなり、1,000ヘルツを越すと筋肉は殆ど収縮しなくなる。

電圧とも関係があり、電圧が高い程短い作用時間で興奮が起こり、低いと作用時間が長くなる。筋肉の興奮の仕方にも特徴があり、電気刺激によって筋肉が興奮すると、その後一定時間がたたないと次の興奮が起こらない。この最低の休養期のことを不応期という。

周波数が多くなると、(1,000ヘルツ以上)筋の収縮が起きなくなるのはこの為である。電気機器を使用するに当たって、この刺激作用を念頭に入れて扱わなければならない。

最初にスイッチを入れて、0から徐々に電流を上げていき、切るときも徐々に電流を下げていかなければならない。生体に自然に電気に対する適応性をつけていくことが大切で、急激な電流変化によるショックを与えないようにしなければならない。低周波の刺激作用を頭部に与えることにより、頭部組織の代謝の促進が起こり、頭皮の血行が良くなり、毛球部細胞の活動が盛んとなり発毛を促す。

#### 高周波磯

導子接着にジェルを使用するものは、施術後に再度シャンプーを必要とするので、頭髪には不向きである。

### 極超短波機

高周波電流の中でも2,450メガヘルツ(24億5千万ヘルツ)波長12.5nm電力50ワットの電磁

波を用いた機器である。この周波数帯は国際的に使用可能な電波帯であることから、

万国共通に医療用としても、一般にも用いられている。

この電磁波は超短波のように閉回路として利用せずに、電磁波放射方式で使用する。放射された電磁場の中へ生体を置くことにより、電磁エネルギーを体が吸収し、その部位に発熱を起こす。原理はやはり生体内の双極子の回転振動、イオンの衝突による摩擦熱と考えられる。

浸透深度は約5センチと言われている。体表面から深部へ5センチの深さまで発熱が起こることは、その深さに至る総べての組織の代謝が亢進することである。

皮膚の表皮層、真皮層、皮下の脂肪層は勿論であるが、もっと深い筋肉層までも到達する。

血液やリンパ液の流れも盛んとなり、組織液の停滞は改善され、むくみが無くなる。尚、深部加温により疼痛が軽減され肩凝りや腰痛が改善される。

気分が和らぎいろいろの不定愁訴が少なくなる。

#### 極超短波の特徴と取り扱い方の注意

極超短波と超短波との違いは、開回路を作らなくてもよいので、導子の体への接着の必要がない。極超短波は放射内へ体を置くだけであるから、使用に際して感電の危険は全くなく、取り扱いが非常に簡単である。(電球を体から少し離して照射するような使い方)

#### 極超短波のリラクゼーション効果

深部からの加温は非常に気持ち良く、肩凝りや腰痛からも開放されるので、種々の不定愁訴がいつの間にかなくなり、心も体も伸びやかになる。

この極超短波機の、おだやかな温熱効果は頭皮に血流促進と毛球部代謝の亢進を起こし発毛が促される。尚、この深部より起こる加温は非常に気持ち良く、リラクゼーション効果があり、発毛、育毛の強敵であるストレスを除く効果を持っている。

#### 遠赤外線照射機

遠赤外線の照射は、温熱効果である。この温熱は、皮膚及び、皮内数ミリへ温熱が浸透する性質を持っている。

遠赤外線照射により、頭皮組織の代謝が促進され血流が盛んとなり、毛球部の活動が盛んとなり発毛が促される。

尚、程良い温熱は、リラクゼーション効果や免疫強化作用を持っているので、ストレスの軽減につながる。ストレスが強いと交感神経優位となり、その作用により末梢血管が収縮してしまう。頭皮の末梢血管が収縮する為毛球部の細胞の発毛作用が抑制を受ける。ストレスの上手な発散に心掛けよう。

## バイオプトロン

赤外線と7色の光を照射する。(紫外線は含まない)

植物は、光のエネルギーをうけてCO<sub>2</sub> とH<sub>2</sub>Oから糖質を合成し、生命活動のエネルギーを貯えている。

動物も、太陽光の赤外線及び、7色の光及び紫外線を受けて体表面の細胞や組織が、生命活動の調節をしている。例えば、赤外線の熱エネルギーを受けて組織は代謝が促進され、赤色は細胞組織の生命活動を励起し、青色は細胞や組織の活動を鎮静させる。7色それぞれの光の持つエネルギーは、それぞれ特有の作用を細胞へ与える。7色全部そろっている場合が一番良好な効果を及ぼす。但し、紫外線はエネルギーが強すぎて細胞核の中のDNAに到達し、DNAに突然変異を起こし、老化、癌化を引き起こすので、バイオプトロンにはカットしてある。(但し、自然界においては紫外線は、殺菌作用を及ぼし、地球上がカビや細菌に占拠されない様にバランスをとっている)

バイオプトロンを頭部に照射すれば、頭皮の組織に、生命活動のエネルギーを与え毛乳頭の血流の促進、毛母細胞の細胞分裂の促進を促す。

頭髮は、毛母細胞の角化によって作られるので、毛母細胞の分裂が盛んになれば、毛がはえてくる。バイオプトロン照射は発毛を促進させる。バイオプトロンのエネルギーは皮下2.5cm迄浸透するので発毛のみならず、頭部の血流が良好となり、脳神経組織の代謝も亢進される。

## ・フットバスの発毛効果

血液の流れは、自律神経によってコントロールを受けている。その自律神経は、大脳の視床下部と言う場所の支配を受けている。

視床下部は、全身の情報を受け取って作動している。例えば、寒さ、暑さ、精神的な喜びやストレス等々・・・である。これらの情報に基づいて体内の環境を整えるのが、視床下部の仕事である。視床下部は、その手段として自律神経やホルモンをコントロールすることにより状況に適合した体内環境を作り出しているのである。自律神経には、交感神経と副交感神経とがあり、交感神経は、闘う時、逃げる時、精神的ストレスの時、寒い時等に強く働く。血管に対しては、皮膚表面の末梢血管を収縮させて血液を心臓に集めようとする。又、血圧を上げたり、心拍数を多くしたりする。その結果、皮膚の組織は血液不足を起こしてしまう。皮膚や毛の細胞は、細胞分裂が抑制されてしまうのである。反対に休息時、リラックス状態、又は、暖かい状態、入浴時等の時は、副交感神経が強く働き、皮膚表面の血管は拡張し、皮膚へ充分な血液の供給がなされる。血圧は

低下し、心拍数も平常になる。

足の末梢血管は、心臓へのおり返し点に当たっており、尚、心臓より足は下であり、その上、心臓より一番遠い位置にあるので足の血流は循環しにくい。又、足が冷たいと、冷たい血液が心臓へ帰ると体温が下がるので、交感神経は足の血管を収縮させ、足からの血液が心臓の方へこない様にさせてしまう。そうして、体内の温度を一定に保とうとするのである。足を暖めると、足の血液が温まり、心臓へ帰る血液が暖かいので、足の血管は拡張する。すると副交感神経が強くなり、皮膚表面の血管や頭皮、毛球部の血管も拡張する。毛母細胞には十分な血液が流れ、酸素や栄養素の供給を受けて活発に細胞分裂をして毛を作り出す。尚、足を暖めると副交感神経が強くなることにより、脳の方も、リラックス状態となりストレスが解消して行く。足を暖めることは、心身に良好な結果をもたらす。

#### ・ウィッグ装着の外観的、精神的効果

発毛の為のホームケア、サロンケアは、充分発毛効果を発揮するはずであるが、頭髮の伸びる速度は1日0.3mm~0.4mmである。1ヶ月1cm前後しか伸びない。まして休止期、退行期の毛は、次の成長期まで発毛しない。発毛が遅いからといって、毎日焦っているのは、今度は又、ストレス性の脱毛が起こってしまう。焦らずに、いらいらせずに、ホームケアを続けながら気長に発毛を待つのが、良い方法である。

しかし、毛が薄くては、オシャレは難しくなる。人間、男も女も若々しく魅力的になる為に、オシャレは欠かせない。それに若々しく、魅力的な外観は、自分にとっても周りにとっても素敵なことである。自分にとっては、若々しいと自信が持て、自信があれば人生の生き方や、仕事に対して意欲的になることが出来る。精神的にも効果が現れてくる。いつも前向きで心楽しい時、脳からはドーパミンがより多く分泌される。すると一層やる気がおこり、楽しく快活になりストレスが除かれて発毛効果も促進していく。

ウィッグは、つけたその瞬間から効果を発揮する。そしてあなたの頭髮は、毎日ウィッグの下ですくすく伸びて行くことになる。夜はウィッグを外し、必ず発毛の為のホームケアをやり続けて行くことが、大切である。

## ・カウンセリングの大切さとインホームドコンセント

### カウンセリングの大切さ

カウンセリングという言葉の意味は、患者（又は、顧客）さんの話を聴くということである。この聴くということは、心を込めて同感しながら、うなづきながら、相づちを打ちながら話を聴くことなのである。決して批判することなく、相手の立場になって聴くのであり、批判したり助言を与える為にきくものではありません。人間は、自分の言うことを心から聴いてくれる人がいることが、救いになるのである。そして殆どの悩みは、聴いてもらうことによって解消してしまったり、自分のあやまちを自分自身で見つけて解決して行くことが出来るのである。勿論、ストレスも取り除かれることになる。これが、カウンセリングである。カウンセリングは、発毛促進に不可欠な手段の一つである。

### インホームドコンセント

インホームドコンセントとは、「説明と同意」という意味である。説明と同意とは、正しい情報や知識を充分説明してもらい、その結果、自分自身で判断してから同意することである。例えば手術を受ける時、この手術によってどんな良い結果と、悪い結果が現れるのか、両方共、充分説明を受け、そして、悪い結果が出るかもしれないが、この際手術を受けないと最悪の結果となると判断したときは、手術を受けることを自分自身で決定するのである。この様な事を「インホームドコンセント」と言う。発毛促進システムも同様である。すぐにでも毛がスクスクはえるとか、必ず毛がはえてくる等と言う情報は正しくない。そこで、どの様にして毛がはえるのか、どの様にして毛が抜けるのか、どの様にしたら発毛の促進が可能なのか、どんなケアをしたら良いのか、等を充分説明を受けて、自分自身納得した上で、発毛促進の為のケアを選択することが大切である。

## ・サロンケアとホームケア

サロンケア 1週間1回 4ヶ月1クール

カウンセリングとインホームドコンセント

シャンプー

フットケア（施術終了まで足の温浴を続けている）

発毛剤のすりこみ

頭髮のスチーム浴

発毛剤のすりこみ

理学的施術（遠赤外線照射、又はバイオプロトン照射、又はマイクロウェーブ照射等）

マッサージ（頭皮及び、肩腕部のマッサージ）

整髪して施術終了

ウィッグのお勧め

## ホームケア

発毛促進システムの中で一番大切なのがホームケアである。毎朝晩のホームケアの継続こそが、効果をあらわすのである。新しい毛の発毛の為に、又現在ある毛を大切に育毛の為に必ず、ホームケアを続けなければならない。

入浴は少しぬるめのお湯にゆっくりつかる。

体全体の血行が良くなり、ストレスもとれる。共に、大切な発毛条件である。

一番大切なのが、シャンプーである。

頭皮の脂や、フケをシャンプーすることで取り除く。脂やフケは、男性型脱毛症の原因の一つである。（フケハゲ、若ハゲ）その上、脂やフケが細菌増殖の温床となり、頭皮に炎症がおこる。炎症部位は痛た痒くなり、掻くとおできがひどくなって行く。その上、炎症部位の毛球部は、弱くなっていき、発毛しにくくなる。

シャンプーは、男性型脱毛症の時は毎日すること。夏は、汗も頭皮を不潔にする原因となる。夏は、朝晩のシャンプーをお勧めする。手の指の腹で、頭皮をマッサージする様な感じでシャンプーすること。洗剤は充分洗い流すことをお忘れなく、その後、リンス剤を髪の毛になじませて洗い流す。

発毛剤をすりこむ。

手の指の腹で、発毛剤をすりこむ。(もしもシミル時は、中止すること。発毛剤があ

-

なたに合わないかもしれない。発毛剤の刺激で頭皮に炎症がおこることもある。アレルギー性の湿疹がおこることもあるので、医師に相談すること。)

やさしく頭皮のマッサージをする。

肩や腕の運動をして、肩凝りをとること。

肩凝りがある場合は、頭への血流が阻害され、ひいては毛球部での毛の製造が出来なくなる。

足の裏を刺激する。

どんな方法でもよいので、足踏みの上に乗るのも良いし、足の裏を叩くのも良い。体全体の疲れがとれ、心もリラックスする。リラックスが毛をはやさせると信じながら、是非毎日続けること。

タバコは脱毛症の大敵である。

タバコ1本吸うと、体温が一度下がると言われている。それだけ体表面の血流が阻害されるのである。勿論、頭皮への血行は妨げられ、毛球部の毛の製造はストップする。タバコとストレスは、脱毛症の大敵である。

毛は夜作られる。

夜は、7時間以上睡眠を取ること。夜は自律神経の中でも、副交感神経が主役となって皮膚表面の血管が拡張していく。尚、夜は成長ホルモンの分泌が盛んになり体全体の細胞分裂が促進され、体の修復、回復をしてくれる。夜は、しっかり睡眠を取ること。

食事は、バランスの良い食事を取ること。

1日3回、腹八分目、魚や大豆製食品から良質の蛋白質を取ること。毛も皮膚も、ケラチンと言う蛋白質から出来ている。毛や皮膚の材料の提供の為に、魚や大豆製品を是非、毎日食べること。そして、野菜を欠かさず食えることが大切である。1日に中皿1杯は必ず、野菜を食べること。毛の製造には、ミネラルも必要なのである。

野菜やコンブ等は、ミネラルがたっぷり入っている。その上、便秘や大腸癌まで予防する。

ホームケアが一番大切！！

ホームケアを続けることが一番大切！！

焦らずに一生涯、ホームケアを続けよう。

《施術内容》

Dr. 浅井の発毛促進システム

グループサロンの施術プログラム

1クール4ヶ月間週1回施術

・ヘアケアアドバイザーによるカウンセリング

毛の生えるメカニズム、毛周期

毛の抜けるメカニズム

ホームケア、サロンケア

発毛剤の説明とお勧め

理学的施術の説明

ウイツグのお勧め

・シャンプー

・足部温浴（パイブレーション、フットケア）50分間

・発毛剤すり込み

・スチーマー15分間

・2回目の発毛剤すり込み

・頭部へ電磁波照射 15分間

・頭部、肩腕部のマッサージ 10分間

ポスター内容 》  
Dr.浅井の発毛促進システム  
グループサロン

抜け毛の予防は早期発見  
早めの手当！！

家族に脱毛症の人がいる。

脂っばい、フケが多くなりだした。

抜け毛が1日100本以上になりだした。

抜け毛の中に短い細い毛が混じりだした。

もう貴方は脱毛症の始まりです

抜け毛、薄毛でお悩みの方  
当サロンへどうぞ！！

ヘアケアアドバイザーが貴方の  
発毛促進をお手伝いします。

《事業内容》

Dr.浅井の発毛促進システム

. Dr.浅井の教材による

ヘアケアアドバイザーの養成教育

教育内容	毛髪解剖
	毛周期
	異常脱毛のメカニズム・
	対策（ホームケア、サロンケア）
	発毛剤の知識・
	理学的施術の知識
	フットケアの知識
	ウィッグの知識（外見、心のケア）
	カウンセリングの大切さと方法

. サロンへ必要物品の斡旋

Dr.浅井の発毛促進システム

グループサロンのポスター

発毛剤  
フットバス  
理学的施術機  
カウンセリング用パネル  
男女既製ウィッグ



宜しくお願い致します。